

# 森づくり最前線

磐城森林管理署 原町森林事務所  
地域統括森林官(原町・馬場・中村担当区) 野口 光三



①治山事業で復旧している  
海岸防災林(松川浦)



②地元小学校の全校児童による  
植樹活動



③自然の再生力を活かして  
森林再生を目指す海岸林



④伐採後5年以上が経過した  
造林予定地

原町森林事務所は福島県の浜通り北部の南相馬市原町区萱浜にあり、海岸から約2.5キロ、東京電力福島第一原子力発電所の北方20数キロに位置しています。そこで私が管轄しているのは、南相馬市、相馬市、新地町と浪江町の一部で、平成23年3月11日の大地震によって様々な被害を受けました。

管内国有林のうち117ヶ所は海岸付近に点在しています。76ヶ所に及ぶ大洲国有林(松川浦)から、0.02ヶ所ほどの上ノ台国有林まで形態は様々であり、その多くが津波の被害を受けました。被害を受けた国有林は、海岸防災林のほか防災緑地や防潮堤など、様々な役割が期待・計画され、復旧が進められています。

津波の被害を受けた海岸林のうち、比較的高台にある森林(写真③)では、奇跡的に残ったクロマツ・アカマツを母樹とし、自然に芽生えた稚樹を刈り出しすることで森林の再生を目指しています。広葉樹やマツの稚樹の発生状況、潮風の影響等を見ながら、きめの細かい手入れをしていきたいと考えています。

平成30年には全国植樹祭が南相馬市原町区零地内の海岸防災林で開催される予定です。植樹会場には国有林も一部含まれ、すぐそばには津波被害を受けた写真③の国有林もあり、復旧・復興の姿を全国に発信できるよう、森林の再生に磨きをかけたいと考えています。

植栽(写真①)を進めているほか、企業や団体と社会貢献の森の協定を締結して市民の力をいただいで植樹しているものや、地元の小学校の全校児童が毎年参加しての植樹活動(写真②)など、多くの方々に関わっていただく形で森林の再生活動が展開されています。

海岸林以外の国有林は阿武隈山地に約1万2千ヶ所あり、その7割が原発の事故に伴う避難指示区域となるなど高線量地域が存在しています。

今後、避難指示が段階的に解除となり、順次営林活動を再開していくこととなりますが、ここで注目しているのは「低コスト造林のヒントが詰まった宝箱」ということです。

具体的には、5年以上手つかずの伐採跡地(写真④)にどの程度有用なものが残っているかを調査し、優先順位をつけながら順次施業を再開していく必要があると考えています。

未曾有の地震や津波による被害と原子力災害による影響は計り知れないものがありますが、復旧・復興に向けた地域の動きや要望等を注視し、計画のすり合わせや課題を共有していくなかで、国有林として貢献し、「地域に国有林があつて良かった」と感じてもらえるような様々な取り組みを推進していきたいと考えています。

これからの地域では原発事故以降5年が経過する現在も、営林活動が制限され、林産物の収穫をはじめ、伐採跡地の植栽や下刈、つる切などの保育作業も休止せざるを得ない状況となっております。

具体的には、5年以上手つかずの伐採跡地(写真④)にどの程度有用なものが残っているかを調査し、優先順位をつけながら順次施業を再開していく必要があると考えています。

未曾有の地震や津波による被害と原子力災害による影響は計り知れないものがありますが、復旧・復興に向けた地域の動きや要望等を注視し、計画のすり合わせや課題を共有していくなかで、国有林として貢献し、「地域に国有林があつて良かった」と感じてもらえるような様々な取り組みを推進していきたいと考えています。

発行所 関東森林管理局  
編集 総務課  
TEL(027) 210-1158  
FAX(027) 230-1393